

四十代はじめの看護婦さん三人が、富山赤十字病院をのめ、退職金で富山市内の住宅街にピンクの外壁の大きめの家をつくった。無認可のデイケアハウス「このゆびと一まれ」である。七年前のことだ。

輸入りの利用案内には「笑いのある楽しいひととき」「だれでも、必要な時に、必要なだけ」「年中無休」「手焼きも簡略」とある。

赤ちゃんも、手助けが必要な障害をもつ人も、物忘れの激しいお年寄りも、申し込めばその日から利用できる。必要なら、「お泊まり」も引き受けろ。

居場所と役割をつくる

年齢や障害によって役割のなっている日本特有の法律や役所のしきたり、面倒な手続きを小気味よくぶちこわす。「このゆび」のそんな挑戦が、二十一世紀の福祉の道しるべとして注目され始めている。

滋賀県知事や愛知県高浜市長は、この方式にほれ込んで同じような仕組みをつくった。

この指と一まれ

似た家は富山県の九カ所から福井、大分、兵庫、宮城、佐賀、長野へと広がる勢いだ。居心地がよくて、と近所の人が手伝いにくる。どこに魅力があるのだろうか。

秘密のひとつは、だれが利用者でだれがスタッフか分からないようになってしまふ、不思議で温かい

な雰囲気である。たとえば、八十六歳になるキヨさん(写真)は昨年秋に写す。

「こんなむさくるしいところへ、ようこられた。若い者んちや、気がいかにんけど、入れられ、入れられ」と笑顔でお客を迎えるので、この人を代表の惣万佳代子さんと取り違える人がいる。赤ちゃんを抱いてあやしたり、褒めたりするお年寄りなので、ボ

子ども、お年寄り、笑顔

ランティアだと思ひこび訪問者も多い。

キヨさんは実は、重症の痴ほう症である。自宅にだけいたときは、排せつ物を靴の中に詰め込んだり、「実家に帰る」と行方不明になったり、家族をきりきり舞いさせた。笑わなかった。ここにきて、がらんと変わって明るくなった。魔法は、役割がある、頼られて

いる、という誇りにあるらしい。

惣万さんと同僚の西村和美さん、梅原けいさんが、この仕事にとびこんだのは、内科

病棟を退院して老人病院に移ったお年寄りたちの悲しい姿を見たからだ。まげを結んで表情豊かだったお年寄りが髪を短く刈り上げられ、仮面のような顔になっていた。別の男性は転院するやいなや、おむつをつけられ、それをはずさないように手足を縛られていた。とうとう、畳の上で死なれんがけ」という訴えが、耳にこびりついた。

「人生の最後の場面で泣いている。なんとか力になれないだろうか」

十八坪のプレハブを建て、年齢制限なしの

デイセンターを一九八三年以来続けていた群馬の田部井康夫さんの話をきいて、惣万さんの決心は固まった。「私には八十坪の土地と二十年の看護婦経験がある」

障害のある三歳の子が最初の利用者だった。若い母は、その子をこへ送り届け、三年ぶりに美容院に出掛けることができた。

三年後、富山県と富山市が「この指」となった。自宅で暮らす障害者、障害児のデイ

ケア・モデル事業を創設して、一回一人二千円の利用費を補助するようになったのだ。翌年にできた民間デイサービス育成事業からは年間百八十万円の補助金が届いた。

介護保険も追い風になった。要介護、要支援のお年寄りは、利用料の九割を介護保険が負担してくれる。利用者が増え、その収入増でスタッフを増やし、ボーナスも出せるようになった。利用者は、四割が子ども、二割が障害のあるおとな、四割がお年寄りだ。

キヨさんは、いま、がんの末期にある。床の間を背に床をのべ、スタッフが食事を一口ずつ運ぶ。二時間がかりだ。赤ちゃんがはつてくる。キヨさんの顔がほころぶ。

「このゆび」では、本当の意味の安らかな死への試みも始まっている。

運動が福祉観を変える

福祉とは、気の毒な障害者や高齢者のため施設をつくり、慰問してあげることだ。そんな福祉観に地域変動が起こり始めている。

「地域密着、小規模、多機能」「小さいことはいいことだ」が合言葉だ。法に基づいた「郊外の、大規模な、収容施設」への反省をもとに、多くの無認可組織が誕生した。

名称はさまざまだ。福岡から広まった宅老所、埼玉の夢家族、栃木のデイホーム、富山のデイケアハウス、北欧の影響を受けたグループホーム。それらがゆるやかに連携する「宅老所・グループホーム全国ネットワーク」も昨年、誕生した。大きな施設や医療機関をこぢんまりした生活の単位に分けていく「ユニットケア」の運動も広がっている。とにかく始める。制度は後からついてくる。そんな心意気が行政を変えている。

社説

「このゆび」の温かい空気にあかたせないのが、赤ちゃんや子どもたちだ。お年寄りにだけだと、いさかいかも起きるが、小さな子どもが入るとたとえ人に和やかになる。世話される側から世話する側になる。赤ちゃんも、3人いる。そのひとり、20歳の一歩さんは養護学校のときから、土曜と祝日に預けられていたが、卒業と同時に、ここに「就職」した。「このゆび」の5周年記念文集に、こう書いている。



# 由紀子さんの旅立ちをお祝いし、 新たな縁を結ぶ会

## 【プログラム】

開会・趣旨説明 北岡賢剛さん（全国地域生活支援ネットワーク）

乾杯 佐柄木俊郎さん（朝日新聞論説主幹）

## 第1部 リレートーク「変えるのは、私たち自身」

清水里香さん・広瀬美香さん・向谷地生良さん……「べてるの家」  
佐藤きみよさん……ベンチレーター利用者ネットワーク  
熊谷 崇さん……日本ヘルスケア歯科研究会  
惣万佳代子さん・西村和美さん……「この指と一まれ」  
樋口恵子さん……全国自立生活センター協議会「I」  
浜田静江さん……「たすけあいゆい」  
池田省三さん……介護の社会化を進める一万人市民委員会  
（雪社説・雪コラムの登場人物たちが、北から南から駆けつけてくださいました）

## 第2部 ミニミニシンポジウム「ネットワークのややこしさ、素晴らしさ」

樋口恵子さん……高齢社会をよくする女性の会  
田中徹二さん……障害分野NGO連絡会  
早瀬 昇さん……大阪ボランティア協会  
（1-2部のコーディネーターは、大熊由紀子さん）

## お喋りタイム

「えにし結び名簿」を手に、新たなご縁を。  
アラスカが、腕によりをかけたお料理もお忘れなく。

## 第3部 フタをあけてのお楽しみ

坂本祐之輔東松山市長の美声で、再び舞台にご注目!!!!!!  
浅野史郎宮城県知事の司会で、さあ、なにが始まりますやら……。

閉会、そして……。 池田昌弘さん（宅老所グループホーム全国ネットワーク）

\*名残惜しい方、さらに「えにし」を広げ、深めたい方は、二次会場へ。  
（2軒先の富国生命ビル地下のイタリア料理店「LA VERDE（ラ・ベルデ）」にて）

\*ご登場のみなさまについては、次ページからの社説・コラム、  
同封の『福祉が変わる医療が変わる』をご覧ください。

# 出欠葉書のメッセージから

(アイウエオ順)

大熊さんのいらっしゃらない「朝日」という日がくるとは……。どれほど多くの記者が支えていただき、辞めるのを思いとどまったことか……。  
(朝日新聞 生井久美子)

大熊さんがいるのといないのでは、日本の福祉は大きく違ったことでしょう。  
(東京大学 上野千鶴子)

由紀子さんの科学部時代の強力なご支援のおかげで、日本にも風力発電がようやく本格化してきました。  
(足利工業大学 牛山泉)

にこやかに、ドキッとするような鋭いこと、今後も、言い続けてください。  
(東海大法学部 宇都木伸)

これからも当事者と共に社会改革を！包み込むやさしい笑顔をいつまでも！  
(神奈川工科大 小川喜道)

この3月に104歳になりました。要介護5ですが、手厚い介護を受けておりハッピーです。キャリアを生かして、ますます社会に貢献なさること、確信しております。  
(元衆議院議員 加藤シヅエ)

由紀子さんの社説を何回読み直したことか。  
(市川房枝記念会 金平輝子)

筋が通り心がこもり説得力ある社説を、「あっ、これは大熊さんの社説だ」と拍手する思いで拝読しておりました。  
(日本記者クラブ 金森トシエ)

厳しさと、優しさと、温かさをいつまでも。  
(全国老人クラブ連合会 見坊和雄)

福祉機器分野への“入門”時以来の師匠です。引き続き“水先案内人”に。  
(NEDO 後藤芳一)

現状に妥協しない姿勢が胸に刻み込まれました。  
(高知・菜の花診療所 真田順子)

社説を読む時のときめきがしばらく減少して、寂しくなります。  
(姫路・内科医 大頭信義)

“世直し論説委員”から“世直し教官”に転身されるのでしょうか？“大学”も、ついでになおしていただけると助かります。他力本願・自力念願！  
(東北福祉大 高橋誠一)

「寝たきり老人」を救い出したジャーナリストとして敬愛の念を禁じ得ません。(介護プロデューサー 竹永睦男)

WHO総会で日本を留守にするので出席できず、残念。  
(女性・子ども・命・未来を守る会 坪井栄孝)

“寝たきり”でなく“寝かせきり”という見事な切り口を出発点に素晴らしい仕事をなさっての新しいご出版、おめでとうございます  
(JT生命誌研究館 中村桂子)

「寝たきりゼロ」から「身体拘束ゼロ」へ。この流れをつくり、果たされた役割は極めて大きかったと思います。1989年の介護対策検討会で一緒にさせていただいて以来、多くの刺激をいただきました。わかりやすく、歯切れの良い社説を読めなくなることが残念です。  
(大正大学 橋本泰子)

大熊さんの本は、いつも、私たちの刺激であり勇気でした。  
(連合生活福祉局 花井圭子)

准看護婦制度問題をめぐる鋭く勇気あるご執筆の数々に多くの看護職が、そして、国民が助けられたと思います。  
(群馬大学 林千冬)

常識を破る視点と勇気に、多くのことを学ばせていただきました。  
(訪問の家 日浦美智江)

社を超えて敬愛する先輩が朝日を卒業されることに寂しい思いです。たとえ、タイガース狂になっても、小生へのご指導はこれまで以上に  
(読売新聞 前野一雄)

「寝たきり老人のいる国いない国」は、いまでも引用させてもらっています。  
(三菱総合研究所 牧野昇)

日本のジャーナリストとして最も早くAnti-smokingの流れをつくっていただきました。  
(たばこ問題情報センター 渡辺文学)

大熊さんの社説をいつも楽しみに読み、学び、実践への数々の示唆を与えていただきました。みんなで支える福祉のまちづくりを目指して懸命に努力します。  
(島根県桜江町役場 三谷卓良)